日立市立山部小学校だより

9月 やまべ

令和５年
９月４日発行
第5号

防災意識の高揚

日立市立山部小学校長　平澤　一彦

９月１日、学校に子どもたちの明るい笑顔と元気な歓声が戻ってきました。22人の子どもたち全員が元気に登校できたことを嬉しく思います。また、夏季休業中には保護者や地域の皆様が、子どもたちの生活を見守ってくださったおかげで、大きな事故もなく、無事２学期を迎えることができました。先日のＰＴＡ奉仕作業では、保護者の方々を始め多くの地域の方々のご尽力を得て、校内を素晴らしい環境に整えていただきました。保護者の皆様のご協力と、そしてこの山部の地域の方々の献身的な活動に心より感謝申し上げます。また、奉仕作業後のお楽しみ行事も、子どもたちにとって夏休みの良い思い出となりました。重ねて感謝申し上げます。

さて、９月１日は、「防災の日」です。1923年に関東大震災が起きた日です。今から約100 年も前のことです。また、記憶に新しい大震災として、2011年3月11日の東日本大震災がありましたが、12年の時が過ぎ、子どもたちには、実体験の記憶はありません。学校では、毎年、火災、地震、不審者侵入などその時ごとの想定で避難訓練を実施しています。私が今までに勤務してきた学校では、体に感じる少し大きめの地震が起きたとき、例外なく子どもたちは「一瞬にして」机の下に入ることができていました。おそらく、日本中の全ての学校でも同じ光景を目にすることができると思います。「地震が起きたら机の下に入る」という「当たり前」の姿は、訓練の大切さを物語っています。

それと同時に、避難訓練をしていて感じることは、子どもたちの意識も大切であるということです。災害は、いつ起きるか分かりません。授業中、教室で担任の指示が届く場にいる時だけでなく、休み時間の運動場で遊んでいるときかもしれません。停電で校内放送が使えないかもしれません。常に最悪の場合を想定しておかなければなりません。そのためには「自分の命は自分で守ることのできる子ども」を育てたいと願っています。地震発生時の場合の基本行動は、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所への避難です。「先生の指示が届かなくても、自分の力で周囲の状況を確認し、どこへ避難したら安全か判断する。」ことや「高学年の児童は、周りに低学年の児童がいたら、手を引いて一緒に避難する。」など、日常の学校生活においても防災の意識を高め、自らの命を守る行動を身に付けられるように力を入れて指導してきます。ご家庭でも、話題にしてみてください。

今学期は、山部ふれあい運動会、校外学習や宿泊学習、やまびこフェスティバルなどなど多くの行事が予定されています。残暑が厳しい毎日ですが、熱中症予防に万全を期しながら教育活動に取り組んで参ります。学校と家庭・地域で力を合わせて、子どもたち一人一人の良さを伸ばしていけるよう皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。